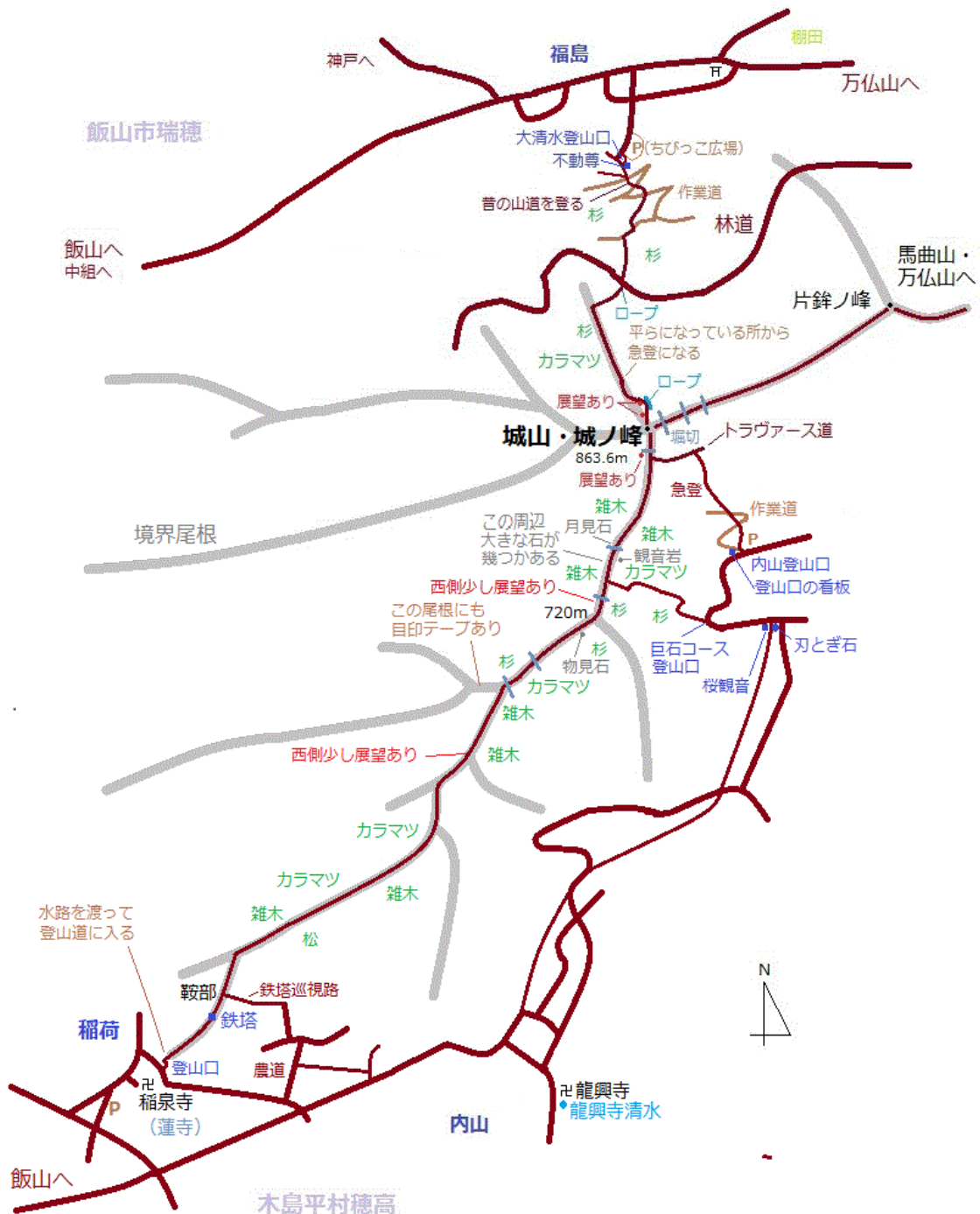


# 【城山・犬飼城跡(城ノ峰)登山案内 改訂版】

令和2年9月1日 K.S

城山は、北信州飯山市と木島平村の境にあり、木島平では「城の山」、飯山市側からは「城ノ峰」と呼ばれ、ピラミダルな山容で低い標高ながらも昔から親しまれてきた里山である。野沢温泉村の毛無山から南西に伸びた尾根は万仏山の北で小菅山を分け。さらに南西に伸びた尾根は城山まで伸びて切れ落ちている。城山は古くから犬飼城という山城が置かれ、近年は身近な里山として、木島平側からは小学生による集団登山が行われていたが、少子化で学校が統合されていく過程で、行事としての登山はなくなってしまった。

その後、登山者も少なくなり、それとともに登山道も整備されず荒れた状態が続いてきたが、最近になり、里山の大切さを認識し、護っていこうとする動きが出てきた中で、この山を再発見する意味で、登山道の幾ばかりの整備を行った。



今回紹介するのは、昔から登られてきた木島平側の「内山コース」と「稲荷稲泉寺コース」、そして新たに設定した「内山巨石コース」と飯山市側からの「城ノ峰大清水コース」であるが、今後毎年手を入れなければ、夏草や藪が発達し、元の荒れた登山道になってしまうと思われる。

注意事項として、この山域は熊が頻繁に出没する地域であり、山の中だけでなく、里まで下りてくことも珍しくはない。効果の程は定かではないが、熊鈴は必ず持参していただきたい。また、夏はハチが活発に活動するので注意が必要である。さらに汗のにおいに群がるアブ等の虫対策としてスプレーを持参した方が良いだろう。

以下各コースを簡単に紹介する。

## 《内山コース》

(登山口←0.30 0.50→山頂)

登山口までは車利用となるので、山頂往復という形が一般的である。時間的にも距離的にも最も近い登山コースである。中間部は直線的に急坂を登っていくので、ハイキングでのんびりという感じではないが、お手軽に山頂までという人にはお勧めである。車2台でアクセスすれば、下山は稲荷や福島側に下れるので、充実した登山となるかもしれない。

内山の集落から奥へ農道を登って行くと、登山口の大きな看板があり、その先に何台か止められる駐車場がある。

登山道に入り、カラマツ林の中の登山道を登って行くと、2回ほど作業道を横切るが、2本目の作業道に出たら、少し左に行ってから再度登山道に入るの間違えないようにする。その上からは、トラヴァース道まで直線的な道が続き、景色も見えないので、ちょっと面白みに欠ける。トラヴァース道に出て左に行くと、まもなく尾根ルートである「稲荷稲泉寺コース」に合流する。

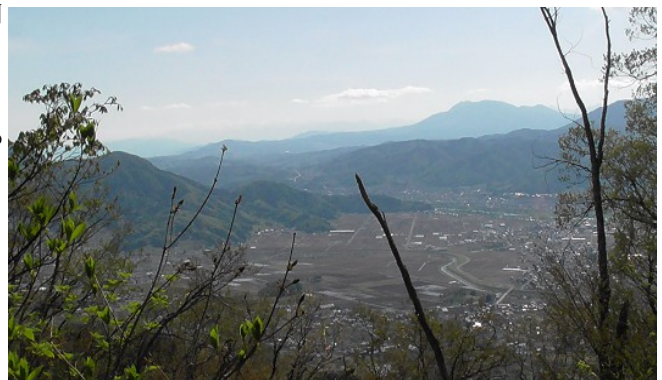
尾根の反対側で展望が利き、広く高社山から北信五岳、北アルプスまで遠望できる。山頂からの展望はないので、そこで展望を楽しんでから山頂に向かうとよい。

登山道に戻り、さらに登れば、まもなく広く整地された城山(863.6m)の山頂(本郭)に達する。

山頂は桜の木が何本かあり、北西側に三角点が置かれている。犬飼城跡の説明版があるが、最近までこの看板は倒木の下に埋もれており、登山道の整備過程で掘り出し修復したものなので、設置状況は良くないが、内容についてはまだまだ読める状態である。

また、山頂の標識がなかったのが、今回新たに設置した。

下山は同コースを下りても良いが、「稲荷稲泉寺コース」から、「巨石コース」を下ったほうが変化があって楽しい。



## 《稲荷稲泉寺コース》

(登山口←0,50 1.30→山頂)

蓮寺として有名な稲泉寺の裏手から長い尾根を忠実に辿るコースで、一日ゆっくりと登山を楽しむならこのコースをお勧めする。

車利用の場合は、稲泉寺の第2駐車場(ゲートボール場横)を利用させてもらう。下山コースは「内山コース」または「巨石コース」から明るい農道を下り、龍興寺の清水に立ち寄った方が変化があって面白い。

稲泉寺の裏から、水路を渡って登山道に入り暫く登ると、送電線の鉄塔に到着する。

笹原を少し下って右から入る鉄塔巡視路を見送り少し登ると急坂となる。登り切って緩い尾根を登って行くが、展望が殆んど利かないので、暫く変化のない道が続く。次の急坂を登ると西側に妙高山が望めるが、再び樹林帯の道となってしまう。

標高 680m 付近で左から尾根が上がってきて、その北側は植林帯となっている。堀切があるところで登山道は右に折れ、その先は 720m ピークまで緩い登りが続く。

ピーク手前の物見石付近から登山道周辺に巨石が点在し、堀切も幾つか見られるようになる。右から「内山巨石コース」が合流し、その先右にある大きな観音岩と登山道横の月見石を過ぎると再び坂が続く、樹林帯を暫く登ると、右から「内山コース」が合流する。尾根の西側に出て、展望を楽しんだら、登山道に戻り、一登りすれば城山山頂である。前記したように、山頂からの展望はないが、広くて平らなのでゆっくり休憩するには良い。

このコースは殆んどが樹林帯を登るため、あまり展望が利かず、6月から10月頃までは面白みが欠ける。シーズンの的には晩秋の紅葉の時期から降雪までと、雪解け後から5月の新緑の頃に歩くのがベストと思われる。



## 《内山巨石コース》

(登山口←0,15 0,30→稲荷コース合流点)

写真上段:物見石

下段:観音岩

次ページ:月見石

稲荷コース途中の巨石付近に合流するショートカットコースで、「稲荷コース」の中間部から上部にかけての登山道整備のために、山道とかすかな踏み跡をつないで仮に開いた道だが、登山口が「内山コース」登山口と200m程の距離なので、周回コースやエスケープコースとしても使える。

車の場合、駐車スペースがないので、「内山コース」の駐車場を利用する。

道標のある登山口から入って、少し先で直進せず右に曲がって登って行くと、再び谷に沿って登る道となる。



左に巨石を見送り、その先で植林帯を左上すると左の小尾根へのトラヴァース道となる。道はすぐに小尾根に出て、急坂を登って行くと「稲荷稲泉寺コース」に合流する。左へ行くと稲荷稲泉寺で「物見石」を見るなら、720mピークの先まで一挙手一投足である。



右に登山道を進むと、少し先の右に大きな「観音岩」が頭を覗かせている。尾根上にはいくつか巨石が見られ、石を利用した堀切を越えると、登山道横に腰かけて休むのに丁度良い「月見石」が転がっている。

巨石を見るだけならここまでで戻ると良いが、登山の場合は山頂まで行って、下山は「内山コース」を取れば、駐車場に直接下りてくることができる。

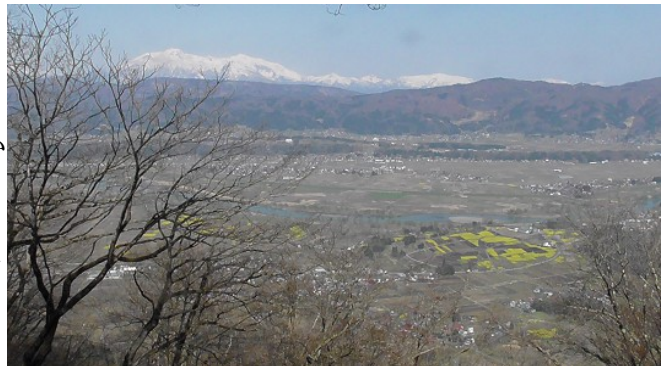
なお、岩名については、以下のネット上にある木島平村による資料を参考にした。

[http://www.vill.kijimadaira.lg.jp/articles/2013031900049/file\\_contents/kyouhon01.pdf](http://www.vill.kijimadaira.lg.jp/articles/2013031900049/file_contents/kyouhon01.pdf)

## 《大清水コース》

(登山口←0.50 1.15→山頂)

「内山コース」と同様、登山口までは車利用となるので、山頂往復という形が一般的である。明瞭な登山道はなかったが、以前より福島側から登られていたので、今回昔からの山道と尾根上の道などをつないで、登山道として楽しめるコースとした。北側からのコース取りは、どうしても崖状の部分があり、それを避けるには灌木の急登を登らねばならず、いろいろと登って思案した結果、一部フィックスロープがあって、崖状ではあるものの、展望が利くコースを設定した。



福島地区のちびっこ広場に駐車し、小さな不動尊の横から奥に進むと作業道が横切っている。作業道に行くこともできるが、昔の山道をつないだ近道があるので、作業道を突っ切り、ケルンと道標を目印に杉の植林帯を登って行くと山腹を巻く林道に出る。

山側にロープが垂れているので登って右上していくと尾根に出る。暫く尾根を登り、少し平らになった所でゴーロにぶつかり急登が始まる。

ゴーロを登り、灌木帯のつづら折りを登って行くと崖状の部分にフィックスロープが張ってある。ロープを頼りに少し登ると最初の展望が開け、眼下に瑞穂地区の集落や千曲川が見え、鍋倉山や妙高山が遠望できる。さらに杉の植林帯に出て、雑木とのコンタクトラインを登って行くと、山頂直下で再度展望が開ける。春の菜の花のシーズンは麓が黄色の絨毯となり、美しい景色を堪能できる。

眺望を楽しんで、少し登ればまもなく山頂に到着する。山頂の景色は上記の通りであるが、このコースを登る時季としては、やはり菜の花の咲く5月の連休辺りをお勧めしたい。